

高槻の街づくり“近未来計画”に関する提言

～ 本年の新春年賀交歓会等での提言の具体的検討を(要望)～

拝啓 平素から商工会議所の運営に何かとご理解ご支援をいただきありがとうございます。

今、本市の中心市街地ではJR高槻駅北東地区の再開発事業が槌音高く進んでおります。

2010年の関西大学高槻新キャンパス開校をはじめとする良好、高質な市街地整備事業の一日も早い完成が望まれます。又、待望の第二名神高速道路の建設も高槻IC、JCTの以西において順調に進展を見せるなど我が高槻の発展基盤は着々と整ってきています。関係者のご尽力に敬意を表するものです。

こうした中、新中心市街地活性化法に基づく基本計画策定作業が現在、行政主導にて進められているところですが、そこで、この機会に小職が本年1月4日の新春年賀交歓会を始め機会毎に提唱してきました本市の街づくりに関する事項について改めて下記のとおり“高槻近未来計画”として提言します。つきましては、是非具体的且つスピード感をもってご検討下さり、当局において概略案(構想)にまで進めて下さるようここに要望するものです。情緒的ではありますが、この実現なくしては高槻の商工業の発展はありえないし、勿論行きかう人々のこれ以上の幸も無い!!と思っています。

この要望事項は少子高齢化社会が進行する中、経済は今、近時のアメリカ発の金融不安に起因して拡大する世界同時不況の波がおそう先行き不安定な状況にあります。そのような状況下ではありますが、円高を世界が認めた我国の高い技術力、研究開発力の指数として積極的に受け止め、世界の一流国として、その生産性と責任を誓い、この確固たる基盤に立って頭脳産業により生み出された製品により、“人”“もの”の暗部の改革に躍進すべき時です。これが高槻市民の人心を鼓舞し、必ずや都市間競争に一步先んじるきっかけになると思われます。具体的行動を起こせば、近未来の高槻地域の有効投資につながることは間違いなく、土木・建築・不動産関係を中心とした「商い発展」の起爆剤となり、大きく民間投資の活性化を招くことになると存じます。そして、財政投資を適切に且つ機動的に執行すれば、地域の中心都市として高槻が発展することになり、奥本市長の長年にわたる健全財政運営の成果が花ひらくことになると存じます。このことにより、高槻市民にこの地に住んで良かったと誇りと力を与え、この蔓延する近時の不況感、閉塞感を払拭する感動力を加えるものと確信しております。

記

1. 中心市街地の商店街は戦略的な「商店街活性化計画」として回遊性と楽しいショッピング環境の整備を進めるべきです。物販機能のみではなく地域コミュニティとお客様への提案の役割が期待される商店街の振興策として次の事を提言します。

上田辺通り(出屋敷)及び芥川商店街の交差点より西側一帯は雰囲気的にも歴史的にも特徴ある奥行き深い地域である。これらを深耕して他に真似の出来ないオンリーワンの店の集積を目指すべきであって、もし所有者等がその“商”が出来ない時は商店街等が組織力を発揮して、世界中から出店者を募り「地域の魅力を発信する商店街」「地域の担い手と連携する商店街」として発展していくことを望みます。例えば世界の商品と高槻産商品のコラボレート事業として農商工連携で生産する商品の販売とアンテナショップ的な活用も面白いのではないのでしょうか。

富田地域の阪急・JRの両駅周辺地域の都市機能の回復・向上策としては懸案の阪急高架の事業化が望まれます。これが起因となり商店街主導による連鎖的な再開発が行われて、賑わいが創出されればと思います。

2. 観光集客の手法として市内の優秀な遺跡、史跡(京大農場を含む)を高度な観光資源として活用すべきです。

中心部の観光資源は何とんでも高槻城関連のものが随一である。城跡公園をもっともっとグレードアップし、その周辺整備計画を阪急南地区の市街地再開発事業及び現代劇場の改築事業とタイミングを合わせて実施することです。これらにより市民による高槻城再建の機運興揚につながることを期待するものです。

北部には高槻の宝、摂津峡・芥川があります。これを往年の姿“名勝 摂津耶馬溪”として近郊からの観光客の集中、高槻市民の一大憩いの場としての復活、これには清い水の増量が望まれます。この一方策として淀川から取水、ポンプアップして淀川に戻す、循環型の事業を実施してはどうでしょうか。このことは今春当所創立 60 周年記念実行委員会が提唱した市役所前の川構想についても近未来の実現を市民の夢として把握していきたいと思います。こうしたことから、特に本件については、実践することを前提として何が課題で何がネックとなるのかを具体的に明らかにして、その解決策を探ることが肝要と存じます。行政の積極的な対応をお願いします。摂津峡から淀川に到る 6km は、市民の散策に最適、そして周囲の催事場となる広場等、数々の周辺環境を含めた雰囲気は景観都市“高槻”の基幹河川として面目躍如、京都・大阪の中心、中枢都市としてその発展のベースとなる観光資源となるでしょう。又、ここには三好長慶の居城として有名な「三好芥川城跡」があります。これも目玉の一つです。

山の緑の保全と開発との調和です。第二名神 I C、JCT の一帯はエコ工業の研究所や工場が立地し、そして頭脳産業のメッカとして豊富な自然と緑と水のマッチングが環境一大ページントを展開するものであって欲しいと思います。「産業観光」の創出・振興にもつながり、大阪商工会議所が実施している「産業観光ツアー」との連携ができればと存じます。用途地域の規制・誘導が肝要です。こうした工業系事業所へのメリハリが利いた配慮は工場の市外移転の防止策となり、優良企業は定着してほしいとの市民の願いに合うものです。更に頭脳産業（大阪 - 京都間の大学等との産学連携）により、より高度な産業誘致に尽力することです。工業系産業の立地基盤、立地環境の整備は今すぐにしなければ近後世に悔いを残すことは必至であろうと思います。伸びゆく高槻には、堺市や尼崎市のような湾がありません。しかし、前述の増量した水、その他人間が健康に生きるためのきれいな空気と太陽、そして深い山と緑、その中での森林浴、文字通り健康都市・頭脳産業都市“高槻”の創造です。

観光のもう一つの大きな観点は面的な広がりを考えねばなりません。隣町には淀川上流“三川合流”と“水無瀬神宮”そして“天王山”“楠公の子別れの桜井”があります。これらと高槻の観光資源とがコラボレートすれば丸 1 日～2 日の観光客が急増することが期待できます。関係者、関係機関等との協議が望まれます。第一に、島本町の理解と協力の取得です。そして、高槻市民の協調姿勢がぜひ必要です。

3. 終わりに

上記の様な高槻（島本町の一部地域を含む）の全体プログラムを作成して、出来るところから速やかにスピード感をもって実行に移すべきと強く思います。

以上、冒頭に述べましたが、主には小職が思いつくまま新春年賀交歓会等で発言してきたものですが、中には、今までの常識を若干逸脱したところもあるかとも存じます。そこで、本提言書は街づくりに関し、火付け役を担えれば幸いと存じ書簡形式としました。今後は公式な提言とするため、これらの事項につきましては当所の地域活性化委員会等へ早急に諮問し、精査（検討）を加え内容を深めてまいりたく考えておりますので、伸びゆく高槻の実現のため皆様方の忌憚りの無いご意見をいただきたく存じます。

この提言は、愛せずにはいられない「高槻」、等しく自身の土地、建物価格の上昇期待、また住む人をして高槻に来てよかったと思われる、孫末代まで発展し続ける高槻・島本の再構築のたたき台です。より良き高槻そして島本町の街づくりに向けて投じる一石となれば幸いです。関係住民と共に具体的な計画とその実現時点の明確な表示を望んでいます。具体化に向けては種々の障碍もあろうかと存じますが、企業・事業者、行政、市民が一体一丸となれば可能です。小生もこの為の努力を惜しむものではございません。高槻を愛してやまない人、心ある多くの方々の参画を期待しています。よろしくをお願いします。

敬 具

平成 20 年 12 月

高槻商工会議所 会 頭 小 山 洋 三